



## 2.9.1. 動画コンテンツの紹介

視聴時間  
76分

## 気になる子どもの理解と対応 ～自己肯定感を膨らませるかわり方～

教育学研究科・杉尾幸司  
NPO法人わくわくの会・小浜ゆかり

### 動画の概要

児童憲章に謳われているように、障がいの有無にかかわらずすべての子どもは自分らしく幸せな人生を歩む権利があり、大人はそれを守る義務があります。また、誰でも得意なことや苦手なこと（発達の凸凹）があり、それが、それぞれの個性、自分らしさでもあり、その人の魅力でもあるはずです。

しかし、今日の社会や学校では、画一的な価値観から、自分らしさや魅力であるはずの《凸凹》をマイナスに捉えてしまう事が多い気がします。その結果、気になる子どもの自己肯定感をしばませていることが多いのではないのでしょうか。自己肯定感がしぼんでしまった子どもたちは、自分に自信が持てないだ

けでなく、自分の存在自体を自己否定して「どうせ・・・」という言葉を繰り返し、大人からのアドバイスも「文句」「攻撃」と受け止めてしまう傾向にあります。それでは、自分らしく幸せな人生を歩むことは難しいと思います。そのため、本コンテンツを通して、受講者の中にある思い込みや、偏った価値観に気づいていただいて、インクルーシブ社会を実現するために何ができるか、いま子どもたちから求められていることはなにか、について一緒に考える機会にさせていただいたら幸いです。

気になる子どもの理解と対応を行うために必要な、自己肯定感を膨らませるかわり方について、各自で学んでいただける内容となっていますので、ぜひご利用ください。

#### 【コンテンツの内容】

- 1) 子どもの特性を理解する
- 2) 子どもの困り感を受け止める
- 3) 子どもの行動の意味を考える
- 4) 自身の支援を振り返る



## 2.9.1. 動画コンテンツの紹介

45分  
視聴時間

## 幼児教育の質の向上

子ども教育開発専修 岡花祈一郎

**動画の概要（予定）**

幼児教育の質の向上に向けて、保育内容の改善、保育の評価、園内研修の組み立て方などを教示する。また、同じ地区内の幼稚園、保育園、認定小学校とのヨコの連携、小学校とのタテの連携のあり方について考える。



45分  
視聴時間

## アプローチカリキュラムの作成と実際

子ども教育開発専修 岡花祈一郎

**動画の概要（予定）**

アプローチカリキュラムの作成の方法と、その活用の仕方について考える。幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿の捉え方、小学校と共同でのカリキュラム作成とその活用を学ぶ。



2.9.1. 動画コンテンツの紹介

60分  
視聴時間

## 幼小をつなぐスタートカリキュラム

### —理念と編成のポイント—

教育学部教育実践学専修・塚原健太

**動画の概要**

よりよい人生や社会を築いていける子どもたちを育てていくためには、それまでに獲得した資質・能力や経験に基づき、各学校段階を超えて教育課程の接続を図っていくことが必要です。とりわけ、生涯にわたる学びや生活の基盤を培う幼児期から児童初期にあたる幼児教育と小学校教育とを接続することは重要な課題となっています。そこで本動画では、小学校入学期のスタートカリキュラムに焦点を当て、幼小接続の方法を考えていきます。まずはスタートカリキュラムの背景や理念を概観します。その上で、スタートカリキュラム編成のポイントを可能な限り具体的な事例を紹介しながら解説します。

本動画には、編成のポイントに対応したワークシートが用意されています。校内研修や地域における保幼小連携研修などでお役立てください。

※この動画コンテンツの紹介は企画段階のもので、実際と異なる場合があります。

解説スライドのイメージ

**1. 子どもの学びや育ちをつなぐ**

何をつなぐのか？

育ちや学び(=資質・能力)をつなぐ

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

4 学校段階等間の接続(小学校学習指導要領/第1章総則/第2教育課程の編成)より

**2. スタートカリキュラム編成・実施のポイント**

基本的な考え方

安心 発揮 自立

① 安心・発揮・自律の理念とプロセス  
安心できる環境で自己発揮することを基盤に、自分からやってみることに喜び実感することにより、「自覚的な学び」につながる。

② 4つの「〇〇タイム」で、1日の学校生活の流れをつくる。

① のんびりタイム 思い思いの時間を過ごす自由遊びの時間  
② なかよしタイム 安心して学校生活を送るための活動時間  
③ わくわくタイム 生活科を中心として合科的・関連的に学習する時間  
④ ぐんぐんタイム 教科等の学習時間

➢ 単元配列表を用いて、合科的・関連的な指導を構想する。  
➢ 弾力的な時間割の設定： ①朝の会から1時間目を連続した時間とする。②15分単位の短時間の活用。③2時間続きの学習活動。

**3. スタートカリキュラム編成のポイント**

⑦ 合科的・関連的な指導で「学びに向かう力」を育てる

【国語】  
こんな こと したよ

【算数】  
10より おおきい かず

【生活】 きれいに さいてね わたしの はな

たねを  
まこう

まいにち  
みよう

まいにち  
せわを しよう

せわを  
つづけよう

たねとりを  
しよう

なにを  
かしたかな

【道徳】  
ほぐの あさがね

【図工】  
こすり ぞめ

==== 合科的な指導

====> 関連的な指導



## 2.9.1. 動画コンテンツの紹介

60分  
視聴時間

## 小学校低学年国語科授業づくり

教育学部国語教育専修 高瀬裕人

**動画の概要**

低学年は、言葉の学びを考えるうえで大切な時期です。そうした低学年の国語科の授業を創るうえでのポイントはどこにあるのでしょうか。

この動画では、前半では低学年の子どもたちの言葉の学びについて考えます。まずは、どのような低学年の子ども観、言葉の学びに対する見方が求められるのかについて、いっしょに考えていきましょう。後半では、低学年の子どもたちの言葉の学びをゆたかにしていくためのポイントを解説します。子どもの声を大切にする、子ども中心の国語の授業づくりについていっしょに考えていきましょう。

ぜひ、この動画を通して、一人ひとりの子どもたちが、これまでの言葉の学び、いまの言葉の学び、これからの言葉の学びをつないでいき、ゆたかな言語生活を営むことができるようになるための授業づくりについて、一緒に考えていきましょう。

そもそも低学年の子どもたちにとって学びとは？

低学年の子どもたちの言葉の学びって？

そもそも言葉の学びってどのようなものなの？

どうすれば子どもたちが自立した言語生活者になるのだろう？

子ども中心の国語科の授業づくりってどうすればいいの？

子どもたちの〈声〉が大切なのはわかるけれど…どうやって授業づくりにいかせばいいの？

どうすれば子どもたちが主体的に言葉の学ぶのだろう？

この動画を見て、一緒に考えてみませんか？

- 低学年の子どもたちにとって言葉の学びとはどのようなものなのでしょうか？
- 子ども中心の低学年国語の授業づくりはどのように実現できるのでしょうか？
- 子どもたちが自立した言語生活者になるために、どのような国語の授業が求められるのでしょうか？



## 2.9.1. 動画コンテンツの紹介

視聴時間  
60分

## 学校教育の歴史から考える「令和の日本型学校教育」を実現する学びのあり方 — 個別最適な学びと協働的な学び —

教育学部教育実践学専修・塚原健太

### 動画の概要

2020年代を通じて実現を目指す学教教育の姿として提示された「令和の日本型学校教育」には、従来の日本における学校教育の優れた部分を継承するとともに、学校教育で当たり前とされてきた枠組みや考え方を根本的に改革していくという両面の意味が込められています。従来の学校教育の何が課題とされ、どのような方法によって乗り越えようとしているのでしょうか。本動画では、2021年1月26日の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して— 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現—」の総論を概観した上で、学校教育の歴史から子どもの学びのあり方を考えます。特に従来の一斉教授の原理的な課題を浮き彫りにした上で、個別最適な学びと協働的な学びの具体的な姿を歴史的な背景や事例を手がかりにしながらかみ解いていきます。

※この動画コンテンツの紹介は企画段階のもので、実際と異なる場合があります。

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（2021年1月26日）  
【総論】見出し

特にこの箇所について  
歴史的に見ていきます。

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力
2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて
3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿
4. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性
5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方



明治末期頃における尋常6年生の  
一斉教授の授業風景

（田中耕治ほか『新しい時代の教育方法』  
有斐閣、2012年、22頁）



大正期頃の奈良女子高等師範学校  
附属小学校における算術の授業風景

（浜田陽太郎ほか編著『近代日本教育の記録』  
下、日本放送出版協会、1978年、83頁）



## 2.9.1. 動画コンテンツの紹介

視聴時間  
45分

## 保幼小接続の連携体制のつくり方

子ども教育開発専修 岡花祈一郎

### 動画の概要（予定）

幼保小接続で重要なことは、地域の各学校園を支えるための教育行政のイニシアティブのあり方がある。県内の公立幼稚園の認定こども園化などもあり、子育て支援課との連携が必要不可欠である。教育委員会と子育て支援課の協働と支援体制のあり方を学ぶ。

\*本動画は、研修支援プロジェクト「琉球大学発！地域の特性を活かす架け橋プログラム保幼小接続に関する研修プログラムの開発」の成果として動画作成したものをアップするものです。

COMING SOON!

視聴時間  
45分

## 保幼小接続に向けた公開保育・ 公開授業のあり方

子ども教育開発専修 岡花祈一郎

### 動画の概要（予定）

幼保小接続に有効な研修としては、子どもの姿をもとに幼保側と小学校側と一緒に学びの姿について語りあう機会を公開保育や公開授業がある。今回はその準備の仕方や事後協議のあり方などを学ぶ。

\*本動画は、研修支援プロジェクト「琉球大学発！地域の特性を活かす架け橋プログラム保幼小接続に関する研修プログラムの開発」の成果として動画作成したものをアップするものです。

COMING SOON!

## 第3章

# 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」 事業全体に関わる活動



### 3.1. キックオフに向けた教授会FD

5月の採択決定を受けて、まずは教授会構成員に本フォーラムについて周知し、今後の協力を仰ぐためのFDを企画し、2023年6月14日にオンラインで開催した。この委託事業を文部科学省が構想した背景、公募の概要など、多くの前提事項についても改めて説明する必要があったため、学部内のFDとしては異例の90分という長い尺を取って実施したが、当日は56名の参加者があり、質疑応答も活発で、多くの教員が関心を持っていることがわかった。

下に、その際に使用したスライド資料の一部を載せる。

## 令和5年度 教育学部教授会FD

日時：2023（令和5）年6月14日（水）15:30～17:00  
開催方法：オンライン（教授会Teams） ※後日、録画配信予定  
主催：教育学部運営会議

### 文部科学省委託事業 （令和4年度補正予算／令和5年度単年度）

## 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」 の構築と展開 ～キックオフに向けて～

文部科学省 令和4年度補正予算「教員研修高度化事業」の背景となった  
令和4年12月19日 中央教育審議会答申

『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について  
～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～

今後の改革の方向性	①「新たな教師の学びの姿」の実現 ○個別最適 ○協働的 ○主体的・対話的で深い学び ○理論と実践の往還
	②多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成 ○専門性の向上 ○管理職のもと心理的安全性確保 ○多様性に配慮 ○働き方改革の推進
	③教職志望者の多様化や教師のライフサイクルの変化を踏まえた育成と安定な確保 ○教職課程の柔軟性の向上 ○ライフサイクルの変化を前向きに捉えて採用や配置等を工夫

↓ 以下の改革を実施

養成段階	採用段階	研修段階
教師に求められる資質能力の柱を5項目に再整理（④特支⑤ICT等）／教育実習の見直し・柔軟化／強みや専門性を身に付ける／四年制大学で2年間で免許取得可能な教職課程や履修モデルの設定／小中両免併有の促進	特別免許状を活かした採用方法の工夫／教員資格認定試験の拡大等	5項目に再整理された資質能力の柱を踏まえた教員育成指標の見直し／特別免許状による採用者を対象とする研修の実施・支援／マネジメント・アセスメント・ファシリテーションといった管理職に求められる資質能力を育成する研修の充実／教員免許状更新制廃止を受け、研修履歴記録とそれを活かした「教師の新たな学び」の実現

文部科学省 令和4年度補正予算  
**「教員研修高度化支援 教員研修の高度化に資するモデル開発事業」**  
 公募の概要

- 事業形態：文科省からの「委託」
- ポイント（事業の趣旨より）
  - 背景＝教員免許状更新制廃止後の新たな教員研修制度のもと、地域の実情や教員育成指標等に合わせた研修が求められている
  - “教員研修の合理化・効率化に資する研修高度化に向けた取組を推進するため”
  - “多様な主体（教育委員会・大学等）の協働によるモデルを開発し、成果を広く普及することで”
  - “全国的な研修観の転換・定着を図る”
- 事業の内容：以下の4つのテーマから（多少重なるのはよい）
  - (1) 教員研修の成果確認と評価モデルの確立に関すること
  - (2) 教員研修や授業研究等の高度化に関すること
  - (3) 教師と管理職の対話と奨励におけるプロセスの最適化に関すること
  - (4) デジタル技術を活用した指導主事訪問の高度化や各学校の研修主事への支援など、教育委員会と教育センターによる学校へのサポート機能の充実に関すること
- 事業規模：1件当たり28,650千円程度      ■採択予定数：36件
- 申請〆切：令和5年3月30日（メール可）      ■事業期間：委託契約締結～令和6年3月29日

琉球大学教育学部が申請し、採択された教員研修高度化事業  
**「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の構築と展開**  
 —「教員研修の協働化」「教員研修の個別最適化」「教員研修の合理化」を図る—

- 沖縄県の教員研修および琉球大学教育学部の関わり方に関する成果と課題
 

アドバイザースタッフ派遣事業と県内市町村教育委員会との連携協定が挙げてきた成果がある一方で、せつかくの成果が単発にとどまり共有化されていないことが課題である。
- 本事業の目的
 

上記の課題および令和3年1月・同4年12月発出の二つの中教審答申を踏まえ、「教員研修の協働化」「教員研修の個別最適化」「教員研修の合理化」を図り、全県的に教員の力量を高めることを目的とする。
- 本事業の概要
 

上記の目的に沿って、**研修コンテンツを発信し研修成果を共有するリアルかつバーチャルな空間広場**を構築する。取り組むのは大きく以下の3点。①各地域・各学校・各教員が実施する**研修内容や成果を全県的に共有**し、研修の協働性を高める。②大学が多彩な研修コンテンツを提供・公開・共有することで、県内各教員が**個別最適な研修内容を選択・実施**できるようにする。③**ネット上で受講→課題提出→修了証受理が可能なシステムを構築**するなど**研修の（質を落とさずに）合理化**を図る。この3点に取り組みつつ、沖縄県教育委員会や沖縄県立総合教育センター等の諸機関と調整して、**県の教員研修履歴システムに連携**させていく。

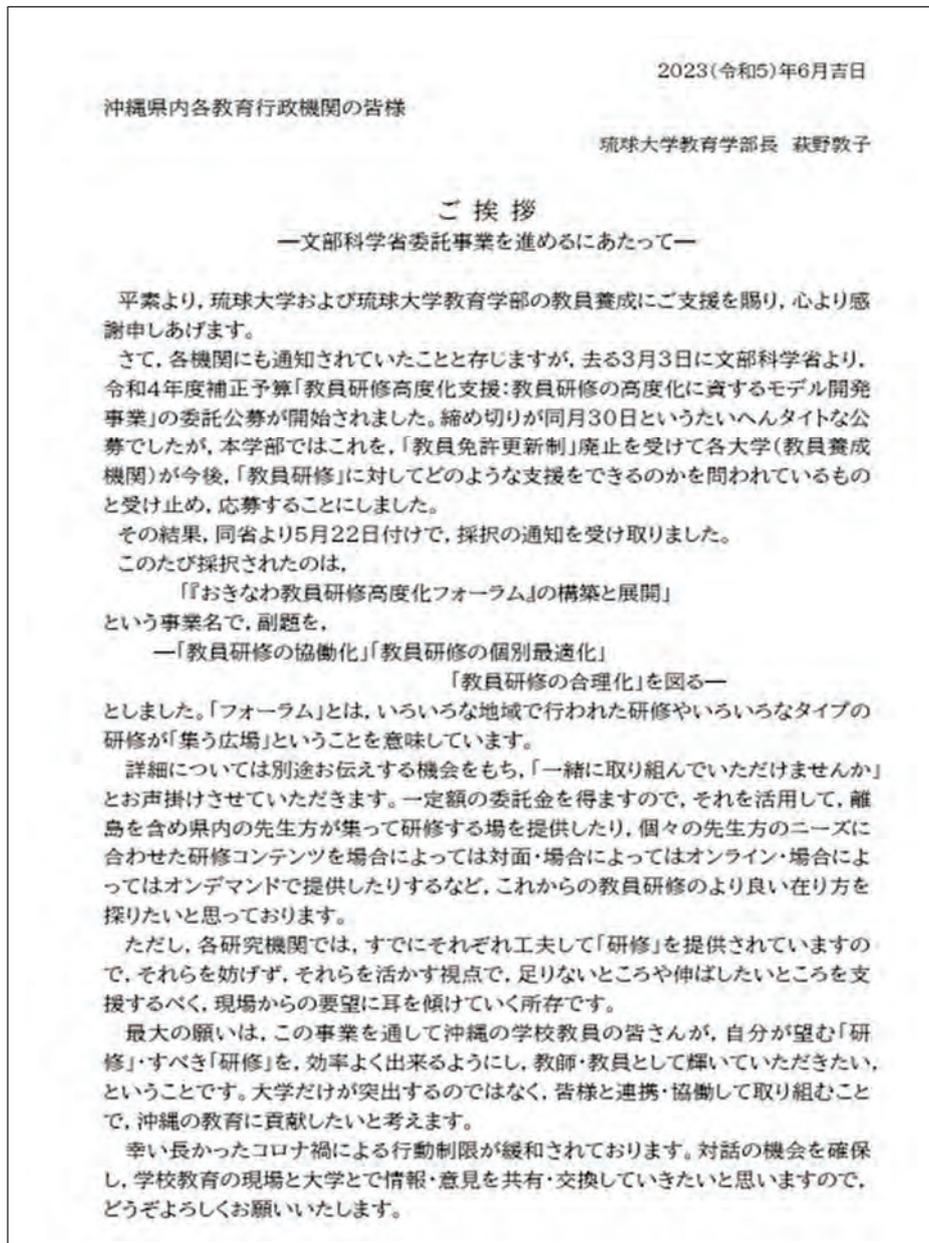
7) 県内関係機関との調整・連絡の状況

主要機関	県）出先＝教育事務所	連携協定地域等
済：沖縄県教育庁 （沖縄県教育委員会） 県教委とは今後、教員研修履歴記録システム作製担当者と連絡・調整を図っていく予定	済：国頭教育事務所（*辻先生）	済：那覇市立教育研究所
	済：中頭教育事務所	済：南部広域行政組合教育委員会
	済：那覇教育事務所	未：宜野湾市教育委員会（7月3日）
	済：島尻教育事務所	済：中城村教育委員会（*村末先生）
	未：宮古教育事務所（7月5日）	未：宮古島市教育委員会（7月5日）
	済：八重山教育事務所	済：石垣市教育委員会
済：沖縄県立総合教育センター		済：竹富町教育委員会
		未：大宜味村教育委員会

### 3.2. 県内教育行政機関等への事業説明

「おきなわ教員研修高度化フォーラム」は、沖縄県内の各教育行政機関や学校現場等との連携なしには成り立たないため、基本的には教育学部長が教育行政機関を回り、事業についての説明を行った。下は、事業説明に用いた挨拶文である。

足を運んだ機関については、前ページ掲載の最後のスライド資料を参照されたい。「未」とあるうち日付が付いている機関には、その日に訪問することができたが、大宜味村教育委員会は学部長ではなく学部教員に説明を委ねた。



各機関とも好意的に、また興味深く説明を聞いてくださり、沖縄県立教育総合センターから研修動画コンテンツについての具体的な助言を得るなど、有意義な意見交換ができた。改めて、諸所に感謝申し上げたい。

## 3.3. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」キックオフイベント

「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の具体的な事業展開（各取組内で実施するプロジェクトや作成する動画コンテンツの内容など）が固まってきた8月、本事業のキックオフイベントを開催した。夏休みのさなかの週末にもかかわらず、70名ほどの参加者があった。下に、その案内チラシを掲げる。



**琉球大学教育学部**  
〈令和5年度文部科学省委託事業〉

**沖縄県の教員研修を支援し成果共有の場をつくる**

**おきなわ教員研修高度化フォーラム**  
**キックオフイベント**

**日時** 2023年  
**8月19日（土）13時～15時**

**会場**  
**Zoom（オンライン）**  
※無料・定員100名

**【申込方法】**  
右記QRコードを読み取るか、  
教育学部HPよりお申込みください。 **申込期限：8月14日（月）**

＜主な参加対象者＞  
県内教育行政機関の長，指導主事等  
県内名学校長，研究主任等  
ほか県内学校関係者  
琉球大学教育学部教授会構成員

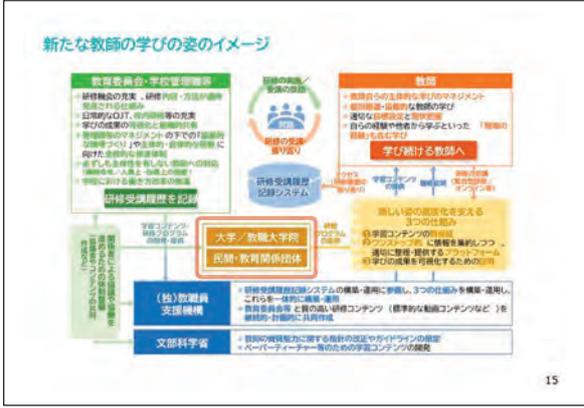
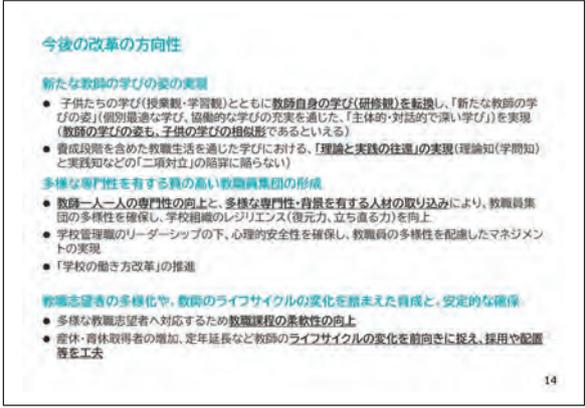
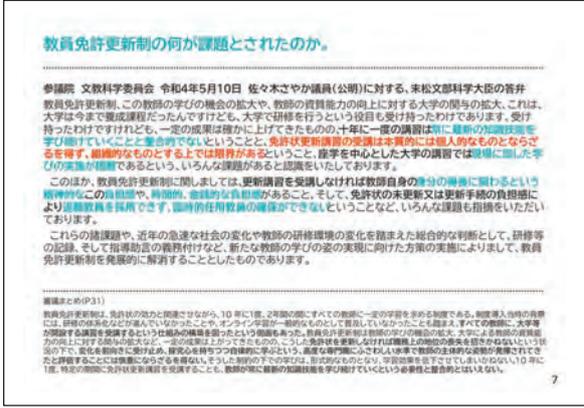
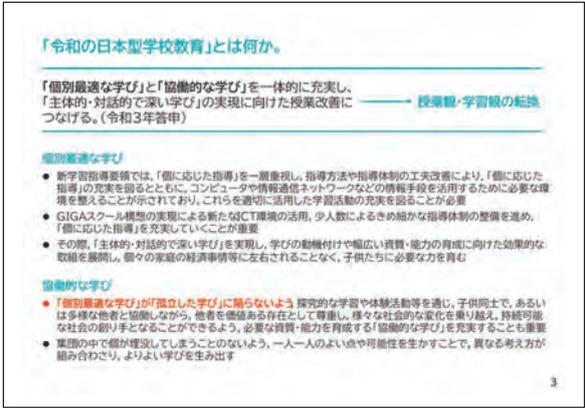
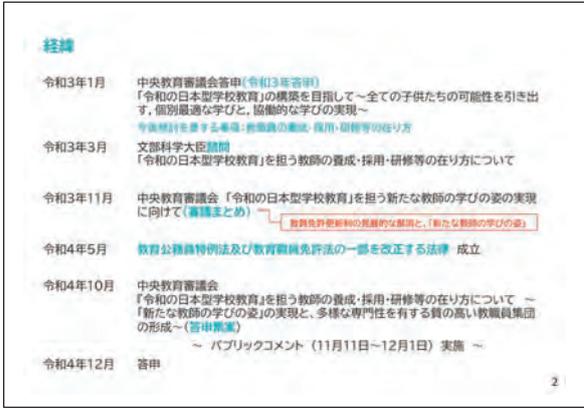
プログラム		司会 琉球大学教育学部 副学部長 山口剛史
13：00 ～13：10	開会のあいさつと本事業の概要説明	琉球大学教育学部 学部長 萩野 敦子
13：10 ～13：55	講演1 新たな教師の学びの姿について	文部科学省総合教育政策局 教育人材政策課 教員免許・研修企画室長 榎原 哲哉 氏
13：55 ～14：25	講演2 沖縄県教育委員会が考える今後の教員研修の在り方や 研修履歴記録に関する準備状況について	沖縄県教育庁学校人事課 小中学校人事管理監 城間 優 氏
14：25 ～14：40	講演1・2をめぐる質疑応答	
14：40 ～14：52	紹介1 本事業で展開されるプロジェクトや企画等について	琉球大学教育学部 学部長 萩野 敦子
14：52 ～14：57	紹介2 琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職 大学院)と教員研修の関わりについて	琉球大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻長 杉尾 幸司
14：57 ～15：00	閉会のあいさつ	琉球大学教職センター長 上地 完治

【主催】琉球大学教育学部・教育学研究科・教職センター  
【お問い合わせ】琉球大学教育学部教育研究支援室 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地  
TEL/FAX:098-895-8373 Email:kisien@acs.u-ryukyu.ac.jp

チラシにあるように、本イベントでは、基調講演として、文部科学省総合政策局教員人材政策課教員免許・研修企画室長の樫原哲哉氏、沖縄県教育庁学校人事課小中学校人事管理監の城間優氏（当日は急な用務が入られたため、同人事班長の稲福政彦氏が講話原稿を代読された）に、ご登壇いただくことができた。

文部科学省と県教育庁に講演を依頼したのは、そもそも本事業の背景となっている教員免許更新制度廃止後の「令和の日本型学校教育」に基づく新たな教員研修の在り方について、我々のような教員養成の立場にある大学教員も各学校現場の教員も必ずしもイメージがつかめていないだろうと予想されたからである。

文部科学省の樫原氏は「新たな教師の学びの姿について」という演題で、下掲のスライドを用いながら、新たな教員研修が必要とされる背景やこれまでの経緯なども含めて、丁寧なお話をしてくださった。（スライドは全21枚。下はその一部。）



参加者に事後アンケートを行い、その中で文部科学省による講演に対する感想等を自由記述で募ったところ、下記のようなコメントがあり、やはり「各種学校（関係者）」や「琉球大学関係者」において理解が進んだとの内容が多く、「教育行政機関」からも改めて整理できたとの声があった。また、特に「各種学校」からは、今後の教員研修の弾力的な在り方に期待する声が少なからず寄せられた。

教員の資質向上を目指した研修体制になるとのことですので、教育行政の立場としてもどのように関わられるか検討していきたい。	(回答者) 教育行政機関
免許更新制度の発展的解消の背景や考え方を整理することができました。	教育行政機関
研修履歴記録の取りまとめについて、県、市町村教育委員会の区別なく、一体的にできるシステムを構築してほしい。研修参加のための予算（参集型）確保、またはオンライン、オンデマンドによる国、県の研修参加の機会を拡充してほしい。	教育行政機関
新たな教師の学びの姿として、子どもの学びの姿との相似形であるということを再確認することができた。教師と管理職の対話の重要性や先生方の強みを伸ばしていく研修、人材育成のあり方について勉強になりました。	教育行政機関
「研修の管理するものではない」「記録すること自体が目的化することがないように」というフレーズに、改めて研修について確認する機会になりました。	教育行政機関
教職員ひとり一人誰もが学べ、負担ではなく続けられるようにして欲しい。	各種学校
大変わかりやすい説明でした。	各種学校
今後の教員養成、現職教員の研修のあり方など、国の方向性を理解することができ、学校現場での準備の心算ができました。ありがとうございました！	各種学校
自分自身の学生時代、個別に応じた学びをあまり経験してこなかったもので、私たち教員にもそのような学び方を選択できるチャンスがあれば、本当にありがたいなと感じました。	各種学校
今後多様な形での研修が可能となるよう、今後も企画提案をお願いします。	各種学校
とてもわかりやすい講演でした。特に「教員免許更新制の発展的解消」の部分は具体的な今後の見通しを示していただきよかったです。	各種学校
管理職として参加しました。新たな教師の学びの姿について理解を深めることができました。働き方改革も含め、これからの学校経営に活かしていきたいです。	各種学校
こどもの学び、教員の学びのためにという視点での御高話ありがとうございました。スライド資料11ページにもあるように、「オンライン研修コンテンツの開発・充実」のねらいはよく理解できますが、1教員として、膨大なコンテンツの中から自分に必要な（関係の深い）コンテンツをどのように選ぶべきかが悩みどころです。研修テーマや概要を読む以外に、簡単に・短時間で必要な研修かどうかを見極めるためにはどのように選んでいけばいいのでしょうか。	各種学校
方針は有るが、方向性は明確にしないように、教員研修は多角化するよう感じました。	各種学校
免許更新制度は、心理的、時間、金銭的にも負担が大きかったので、個人が必要な研修を選んで受講できる形の方がかなり有意義だと思います。教育現場が大きく変化し、これまでの知識や認識では対応できない場面が多くなってきているので、常に新しい情報入手して学ぶ姿勢を持ち続けていきたいと思いました。	各種学校
文科として「大変になりすぎない研修」を志向しているというのが印象に残っている。合理的・効果的な研修というのを考える必要があると感じた。	琉球大学関係者
教員研修についての方個性を確認できたことが今後役に立ちそうです。	琉球大学関係者
教員研修に関する政策の考え方や方向性がよくわかりました。私自身がくみとれていない部分が多かったので、勉強になりました。	琉球大学関係者
私自身は何度か文科省の説明を聴く機会があり内容は理解していたつもりですが、参会者にはそうでなかった方も多かったと思うので、背景からの丁寧なご説明に感謝します。今後ですが、履歴システムについて、大学関係者にも使い方等を説明する会を設けていただくとありがたいです。また、大学が提供する研修・コンテンツを教員の皆さんが積極的にシステムに記入していけるよう、文科省からの働きかけをよろしく願いいたします。	琉球大学関係者

また、県教育庁の城間氏（代読・稲福氏）の講演は、（本学部からの要望として）「研修履歴の記録・保存のシステムの見通し」の話を軸にさせていただいたが、あわせて教員研修の問題とも分かちがたく結びついている「教員の働き方改革」や、それと連動する「教員不足」の問題にまで言及され、教員研修について考えることは教員の人生・教員の生活全般について考えることに他ならないのだということを実感する機会となった。（スライド資料については講演内での画面共有のみ。）

事後アンケートにおいても下に掲げたとおり、研修履歴についてのコメントだけでなく、働き方についてのコメントが少なからず見られる。

働き方改革もあわせて、教員の資質向上につながればと思います。	教育行政機関
最後の部分にありました、「対話に基づく受講奨励の方法・時期」について、周知されることを期待しております。	教育行政機関
研修参加のための予算(参集型)確保、またはオンライン、オンデマンドによる国、県の研修参加の機会を拡充するため、国に意見・要望してほしい。	教育行政機関
研修履歴に記載する「研修名」や「研修内容」等は研修を受けた本人の判断でいいのでしょうか。（そうなると同じ研修を受けてもそれぞれの判断で記載内容が変わる事もあると思います）開催する側が「履歴にはこのように記載してください」と研修名・(コンパクトにした)研修内容を開催時に紹介した方がいいのでしょうか。	教育行政機関
記録が教職員、管理者どちらにも負担のないようにしたい。	各種学校
研修履歴の記載について、可能な限り早い段階での情報提供をお願いいたします。	各種学校
記録対象とする研修等及び記録内容に関する基準づくりを早めに行い、現場へ示して頂きたい。	各種学校
研修履歴の進捗状況がよくわかりました。より多様な研修会が選択して履修できるようになることを楽しみにしております。また、学校現場で協力できることがあれば積極的に協力させていただきます。	各種学校
スキマ時間を活用できる研修のあり方や、自身の子育ても頑張りながら参加できる研修を心から期待しています。	各種学校
教員免許の発展的解消が、いい方向に進み、教職員の多様なニーズに応える研修、資質向上につながる研修体制を構築を期待しています。	各種学校
まだまだ未定の部分が多いようで、現場としては不安要素も大きいですが、今後は大学が提供する是非様々な研修について認定していただき、先生方のモチベーションを高めていただけるよう、よろしく願いいたします。	各種学校
研修履歴や今後の県の取り組みについて、改めて確認することができました。学校現場の厳しい状況をどうにか少しでも解決できるよう、大変だと思いますがよろしく願います。稲福先生、急な対応での説明、分かりやすかったです。	各種学校
研修を受講するための時間をどうねん出するかについて。教師の多忙化(多忙感)を少しでも解消するために、校務分掌や生徒・保護者対応などで「これは教師以外(教員免許をもたない人材)でもできる業務」を切り分けたいのですが、専門的な知識がないため、県教育庁から他校の取り組み事例やアドバイスなどがあれば教えてほしいです。	各種学校
文科省と現場の間で何が正解なのか、持続可能な研修の姿を模索していきたいですね。	各種学校
研修履歴記録について、存在は知ってはいたがよくわからない部分が多かったので、講演を通して知ることができました。今年度始めに資料提供があったと思うので、もう一度見直してみます。	各種学校
任意団体、民間機関や研究団体等の実施計画(内容)等で判断して頂くことができるようになることが希望です。また、後援に教育委員会がついている場合など、柔軟に研修の範囲を広げていただけることを希望します。	琉球大学関係者
教員研修に関する県の取り組み方もご解説いただき、具体的なアクションがよくわかりました。県下の先生方に対して、何が求められるようになるのかを考える参考になりました。	琉球大学関係者
今後は、本件をめぐる県教育庁と琉大教育学部の連携が必須だと思います。教員研修の個別最適化・合理化の先に、教員の働き方の改革も見えてくると思いますので、ぜひ密に情報・意見交換を重ねていければと思います。	琉球大学関係者

## 3.4. 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」成果報告会

「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の最終イベントとして成果報告会（テーマ：子どもに寄り添い、豊かな学びを育む教員であるために）を下記のとおり開催する。2月初旬の現段階では正式なチラシが未完成のため、仮チラシを掲げる。

なお、講演をお願いした下向依梨氏は、県内外で子どもファーストの学びを多様・多彩に展開している、注目の教育クリエイターである。

**琉球大学教育学部〈令和5年度実施 文部科学省委託事業〉**  
**おきなわ教員研修高度化フォーラム 成果報告会**  
**《子どもに寄り添い、豊かな学びを育む教員であるために》**

**【日時】** 2024年3月3日（日）13時～17時  
 ※開場は12時です。  
 13時の開会までは交流タイムとして、  
 フリースペースでご歓談いただけます。  
 閉会後も約1時間、同スペースで交流できます。

**【会場】** 西原町町民交流センター  
 「さわふじ未来ホール」（西原町字小波津555）  
 ※西原町役場に隣接しています。広い駐車場あり。

**【プログラム】** 司会 廣瀬 等

(13:00～13:10)  
 開会のあいさつ 琉球大学教職センター長 上地完治

(13:10～14:10)  
 おきなわ教育研修高度化フォーラム 令和5年度の成果報告 Part1  
 事例報告その1 先生方と考える保護者対応 琉球大学教職大学院 白尾裕志

(14:20～15:20)  
 おきなわ教育研修高度化フォーラム 令和5年度の成果報告 Part2  
 事例報告その2 先生方と考える子どものWell-being  
 琉球大学教職大学院 杉尾幸司

(15:35～16:50)  
 講演 未来をつくる子どもたちの学びを育むために  
 —SELをベースとした教育の実践などから—  
 教育クリエイター／学びプロダクション「roku you」代表取締役 下向依梨氏

(16:50～17:00)  
 閉会のあいさつ 琉球大学教育学部長 萩野敦子

**【後援】** 沖縄県教育委員会 石垣市教育委員会 大宜味村教育委員会  
 宜野湾市教育委員会 竹富町教育委員会 南部広域行政組合教育委員会  
 中城村教育委員会 那覇市教育委員会 宮古島市教育委員会（予定）

**入場無料！ 学校教育に関心のある方ならば、どなたでも参加できます。**  
**参加申込の方は右のQRコードを読み取ってください。**  
**事前申込みは2月29日まで。当日の飛び入り参加も大歓迎です。**



# 謝 辞

令和5年5月下旬に文部科学省より採択決定の通知を得て開始した、教員研修高度化支援・教員研修の高度化に資するモデル開発事業『おきなわ教員研修高度化フォーラム』の構築と展開の実施・遂行にあたっては、県内の各教育行政機関より、さまざまな支援や助言を受けました。ここに記して、改めて感謝の意を表します。

沖縄県教育委員会（沖縄県教育庁）  
沖縄県立総合教育センター  
石垣市教育委員会／石垣市立教育研究所  
大宜味村教育委員会  
宜野湾市教育委員会／はごろも学習センター（教育研究所）  
竹富町教育委員会  
那覇市教育委員会／那覇市立教育研究所  
南部広域行政組合委員会／島尻教育研究所  
宮古島市教育委員会／宮古島市立教育研究所  
八重山教育事務所

また、身内の話になってしまいますが、琉球大学教育学部・大学院教育学研究科（教職大学院）・教職センターの所属教員の皆さんには、短期間の事業ながら計画した取組において多くのプロジェクトを提案し、実施いただきました。そのひとつひとつが、この事業を駆動させるうえでのたいせつなエネルギーとなりました。まことにありがとうございます。

そして何より、多忙な日々の業務のかたわら、本フォーラムで展開されたさまざまな活動にご参加くださった、沖縄県内の各種学校に勤務する教員の皆さんに、心より感謝申し上げます。琉球大学教育学部・教職大学院・教職センターは、今後も皆さんの声に耳を傾けながら、皆さんの「学び続ける教師」としての教員生活を支えていきたいと考えております。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

令和6（2024）年2月吉日

琉球大学教育学部運営会議  
同学部 教員研修開発事業部

令和4年度補正予算（令和5年度実施） 文部科学省委託事業  
教員研修高度化支援 教員研修の高度化に資するモデル開発事業

## 「おきなわ教員研修高度化フォーラム」の構築と展開

—「教員研修の協働化」「教員研修の個別最適化」「教員研修の合理化」を図る—

### 成果報告書

令和6年3月1日 発行  
発行者；琉球大学教育学部

(連絡先) 琉球大学教育学部  
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1  
TEL:098-895-8315/FAX:098-895-8316  
Mail: ok3@acs.u-ryukyu.ac.jp

(印刷所) 冊子印刷のオリンピック  
〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀2-1-13-6階  
TEL:06-6448-8508/FAX:06-6448-8509